

WDSF テクニックブックの改訂新版では、以前の版から多少の内容の変更・追加を行っている。以下にあげる記載は、以前の版における印刷・編集上の誤りを訂正する正誤一覧である。さらに、テクニク解説強化の一環として、改訂新版ではこの一覧にあげたもの以外にも加筆・改訂がなされているが、以前の版の記述を無効なものとするということではない。**WDSF が実施するテクニク試験等では、この正誤一覧にあげるものを除いて、以前の版・改訂新版どちらの記載に基づいて解答しても正解と見なされる。**

スタンダードの原理(5 種目共通)

7 ページ、左の表の 2) 足の位置の最後の「ートウ・ピボット p.23」の次の行に追加

ースウィブル・アクション P.23

8 ページ、下から 3 行目の「下層軸」を「仮想軸」に修正（←技術部注：「DS 教本ワルツ」以外は修正済み）

12 ページ、「スウィング・サイド・ステップ」の見出しの前に次の一節を追加

体重移動と回転を形作る根幹として、足の位置に色々な「基礎的動作(General Actions)」と呼ぶべきものがあるが、特に重要なものをここからのページに示す。

12 ページ、「スウィング・サイド・ステップ」の項目の 1～2 行目を以下の文で置き換える

全てのスウィング・サイド・ステップは前進（もしくは後退）し"横へ"で終わる。しかしながら、チャートではサイド・ステップのみの表記となる。
"横へ"で終わらない場合は、この動作は単に「スウィング・ステップ」と呼ばれる。

18 ページ、「ヒール・ターン」の項目の 8 行目の最後の 5 文字～9 行目に 1 文を次の表記に置き換える

パートナーが前に動く 2 歩目は、**前進**で始め、サイドで終了する。

18 ページ、表のステップ 1 とステップ 2 を次の表記に置き換える

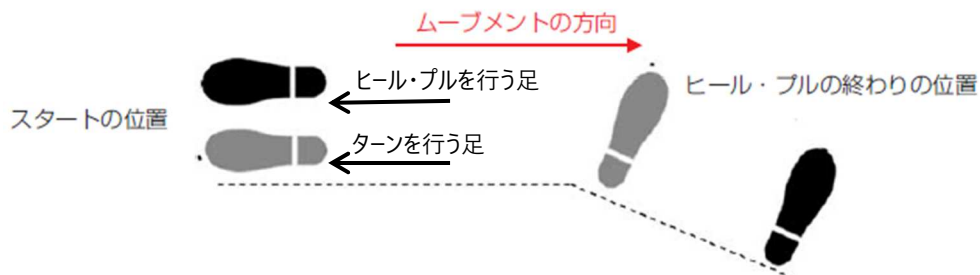
ステップ	男子	女子
1	1 でロウア（脚）次いで 1 の終わりでライズを始める（脚-足）	1 でロウア（脚）次いで 1 の終わりでライズを始める（脚-ボディ）
2	2 でライズを継続（足-脚）	2 でライズを継続（脚-足-ボディ）

【技術部】P.62 のチャートは修正漏れか？

18 ページ、「ヒール・プル」の項目の 3 行目後ろに次の一節を追加

ヒール・ターンを行う足と類似の連携動作であるが、ターンの終わりでムービング・フット（ヒール・プルを行う足）が、フット・アクション（H - 足の I/E - フラット F）を用いて少し横に置くという点異なる。

18 ページ、図を置き替える



21 ページ、「プレパレーション・ステップ」の項目の最後に以下の 1 節を追加（「ブラッシュ」の前）

この場合に限らず、一般的に「**単純なステップ**」(**前進歩または後退歩**)においても、センター・バランスとリカバリーの原理は尊重されなければならない。これらのポジションはボディのオーバー・バランス、支え脚のコントロール、およびフリー・レッグのスイングといったものの調和から生み出される。当然ながら、後退歩では「**プレパレーション**」段階も意識されなければならない(「**ドライブ・アクション**」の項を参照)。

21 ページ、「**ブラッシュ**」の項目の 2 行目に続け以下の 1 節を追加

この「**ブラッシュ**」の動作の間、足の正しいシェイプと両足のつま先の指す正しいアライメントが示されていないなければならない。

22 ページ、「**クローズ**」の項目の 3 行目の「...、その結果両脚が閉じられる。」を「...、その結果両足が閉じられる。」に修正

23 ページ、「**トゥ・ピボット**」の項目の 5 行目終わりの次の 1 節を削除

(通常横への動きで得られる)

この項目の最後に新たな文として以下の 1 節を追加

ただし、スタンディング・フットヘフリー・フットを完全にはリカバリーさせずにこの動作を行う場合もあり、その場合その動作を「**オープン・トゥ・ピボット**」と呼ぶ。さらに、ライズした状態から始めて、回転の終わりでヒールをロウアするようにオープン・トゥ・ピボットの動作をした場合は、特にこれを「**オーバー・スピン**」と呼ぶ。

23 ページ、新たな 4 番目の項目見出しとして「**スウィブル・アクション**」を追加（トゥ・ピボット項目の下）

23 ページ、「**スウィブル・アクション**」見出しの下に以下を追加

スウィブル・アクションは片方の足の上に体重を保持してターンする動作である。スウィブル・アクションはダイレクションやカップル・ポジションを変えるのに用いることができる。スウィブルを正しく行うには次の連携した連続動作を行わなければならない：

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1) センター・バランス・ポジションに到達する | 2) ムービング・フットに体重を移動（新支え足）する |
|-------------------------|----------------------------|

...同時に

- a) ターンと同じ方向にショルダーを回転させ；
- b) ターンの回転と同じ方向にヒップを回転させ（ショルダーより少し多く）；
- c) ボディの下にフリー・レッグをリカバリーする（この段階では、スウィブルをロウアで行うなら、もう一方の膝は後ろに残し新支え足へ閉じる）；スウィブルをライズで行うなら、フリー・フットは体重をかけずに新支え足へ閉じる）。

24 ページ、「4. 回転量」の終わり部分に 2 番目の項目見出しとして「**ターンの開始アクション**」を追加

24 ページ、「**ターンの開始アクション**」見出しの下に以下を追加

スタンダード・ダンスにおいてはほとんどの回転はターンの開始アクションで始める。それは、ステップのはじめ（主にリカバリ・ポジションのステップ上）に、支え足に関連してツイストする一種の軽いヒップのローテーションから成る。このアクションは；ターンを始めるとき（例えば、1 歩目と 2 歩目の間のターンを円滑にするためのナチュラル・ターンの 1 歩目でターンを始める）、又はドライブ・アクション・ステップの最初から終わりにかけてアライメントを変えるとき（例えば、ヴィエニーズ・ワルツのナチュラル・ターンの 1 歩目）、又はステップの間に足の位置を変えるとき（脚の側方運動の原則の説明に記載されているように）に用いられる。**重要：**ターンの開始はダイナミック・ローテーションで代替することはできない。

24 ページ、「**フット・アクション**」の項目の最後の「その間の」で始まる文を以下の文に置き換える。

その途中で足裏のどの部分がフロアに触れているかについては、通常は体重の移動に伴って足裏が転がる(フット・ロール)ように変化するため、ほとんどの場合チャートでは明示しない(「足の裏の使い方の原理」を参照)。

PD 事業本部技術部

25 ページ、表の下から 2 つ目の欄の「フットのインサイド・エッジ」を以下のように追加・修正

フット・あるいはエクストリーム・トゥまたはボール（例：タンゴ）のインサイド・エッジ

25 ページ、表の一番下の欄の「トゥのアウトサイド・エッジ」を以下のように追加・修正

トゥまたはエクストリーム・トゥのアウトサイド・エッジ

26 ページ、最初の節のタイトル「足の裏の使い方の原理」に以下を追加

（ドライブ・アクションに適用する）

26 ページ、6) タイミングの項は以下の説明文ですべてを置き換える

6) タイミング

チャートに書かれているフィギュアを習得し実践するには、音楽構成の基本的な理解が必要となる。（後述“ダンススポーツの音楽”参照）

タイミング： ステップやアクションを行う上で、テンポ(音楽の速さ)の正しい使い方を示す。これはチャートのステップ／アクション欄ごとに示されている。

ビート・バリュー： ステップ/アクションに用いられる時間量（ビート数で示される）

ダンススポーツではそれぞれのステップ/アクションについてチャートに明確に示されている。

それゆえ、それぞれのステップ/アクションには理論的なビート・バリューがある：

1	1 拍
&	1/2 拍（タンゴは 1/4 拍）
a	1/4 拍（タンゴでは使用しない）
S	2 拍（4/4 拍子、例：スロー・フォックス）、1 拍（2/4 拍子、例：タンゴ）
Q	1 拍（4/4 拍子、例：スロー・フォックス）、1/2 拍（2/4 拍子、例：タンゴ）

シャッフル・タイミング： ビート・バリューのわずかな変動は、動作と体重移動を損なわないために使用される。フィギュアの最初のステップのタイミングとアクセントは、どのような場合でも尊重されるべきである。チャートを理解する際の標準化されたビートの値は規則ではなくガイドラインとするべきである。シャッフル・タイミングの導入を考慮する際は、チャートにビートの列を含める必要はない。

音楽におけるシャッフル・タイミング。 音楽界のアーティストや演技者たちは、高い芸術性のパフォーマンスをするためには、確立された古典的なビート・バリューを柔軟に解釈することが必要であることをずいぶん前から分かっていた。クラシックやジャズ音楽では、このシャッフル・タイミングという原理（時にスウィング・タイムと呼ばれている）が頻繁に使われている。ビートの長さは楽譜上、明快さと統一性を保つために、一定の長さが決められているが、その長さはオリジナルの 2 倍まで引き延ばしたり、あるいは半分まで短縮することができる。これが、ジャンルに関係なく同じ曲であっても演奏するアーティストやその時の演奏により異なる印象を受ける要因である。

ダンススポーツでは、上級のダンサーは身体能力や個人の能力に応じてフィギュアに含まれる各ステップやアクションの時間長を変化させる傾向があるため、ビート・バリューを固定することは上級のダンサーには制約となることが分かっている。

芸術的スポーツであるダンススポーツにおいて、シャッフル・タイミングという考え方は、ダンサーの芸術的・音楽的表現を効果的に増大する上で大いに利点がある。

27 ページ、表のバックワード・ロック、カップル 1、ステップ 4 の右側セル値「220」を「720」に修正【教本ワルツのみ】

29 ページ、最初の行の上の空白に以下の副見出しを追加(下線付き)

シンコペーションのルール

同じく 4 行目を以下のように訂正

& (and) は 1/2 ビート (タンゴでは 1/4 ビート)

同じく 5 行目の最初の 1 節を以下のように訂正

ダンススポーツでは、シンコペーションという言葉、音楽の 1 ビートで複数のステップを踏むという意味で用いる。

29 ページ、中頃「振り付けの特殊なタイミング」の項の 1～2 行目の()内の文を次の文で置き換える

例えばヒール・ブル・フィニッシュやベイシック・シラバスには含まれていないフィギュア、例えばスロー・フォックスのランジ・ロール

30 ページ、ポスターの中ほどの「b.」の記述を以下の記述に置き換える

b. 女子は体重を足部のボールに向けて移動させ、ボディの上部（上部：胸部から上）を伸ばすことによって頭を後ろに動かす後方にカーブしたラインを作らなければならない。ボディの同じ部分はまたわずかなテクニカル・スウェイによって左へのラインを形作るべきである。ショルダー・ラインは（わずかな右へのコスメティック・スウェイを使って）床に平行に保たれ、ヘッドはアップライトに、首は長く、肩は落とすこと。

31 ページ、下の表の下から 3 行目、「右太腿」を「右大腿」に訂正

31 ページ、下の表の下から 2 行目、「左太腿」を「右大腿」に訂正

33 ページ、下の表の右側の写真、次の写真と置き換え【教本ワルツのみ】



36 ページ、左上図の下に次の説明文を追加

ヘッド・ポジション：ポジション 5（男子）、ポジション 1（女子）

36 ページ、右上図の下に次の説明文を追加

ヘッド・ポジション：ポジション 5 に向けて（男子）、ポジション 1（女子）

36 ページ、左下図の上の表題を置き換え

男子右スウェイで横ヘステップ

36 ページ、左下図の下に次の説明文を追加

ヘッド・ポジション：ポジション 4（男子）、ポジション 2 に向けて（女子）

36 ページ、右下図の上の表題を置き換え

男子左スウェイで横ヘステップ

36 ページ、右下図の下に次の説明文を追加

PD 事業本部技術部

ヘッド・ポジション：ポジション 3（男子）、ポジション 6 に向けて（女子）

38 ページ、ライトネス（CBM-コントラリー・ボディ・ムーブメント：の 3 行の説明文の後ろに次の文を追加する。

ターンあるいはムーブメントを円滑に行う必要があるときは、このローテーションは大切である。したがって、どのステップにも使うことができる。

38 ページ、チェンジ・センターの例：オープン・インピタスを次のフィギュアに書き換える。

インピタス・トゥ・PP

39 ページ、ターン開始原則（脚の側方運動の原則）の見出しと本文の間に次の文を挿入

回転量のセクション「4）回転量」で説明したように、ほとんどのターンは、ターンの開始アクションで始めるが、この節ではもう一つのターンの開始の応用（脚の側方運動の原則）について記述する。

39 ページ、最後の行に記載の次の文を削除

上記の手順は一般に“ターンの開始”と呼ばれる。（第 4 章 回転量 も参照）。

41 ページ、スウェイの適用例の最初の項目の後ろに次の説明を追加

（例えば、ワルツのナチュラル・ターンのステップ 2 と 3 では、ステップ 2 はテクニカル・スウェイと記載されているが、コスメティック・スウェイのみが示されているステップ 3 でも維持されなければならない）。

42 ページ、チャートの右下説明文を次の説明に置き換え

エクステンション時のヘッドの連携の説明